

鳴門海峡一金刀比羅宮



2014年9月22日

金刀比羅宮(ことひらぐう)は香川県象頭山中腹に鎮座する神道の神社であって、宗教法人金刀比羅山本教の本部、全国の金刀比羅神社・琴平神社・金毘羅神社の総本部になっている。明治維新で神仏分離がなされる前は真言宗の象頭山松尾寺金光院であり、神仏習合で象頭山金毘羅大権現と呼ばれていた。海上交通の守り神として中世代から信仰されており、江戸時代には全国で金毘羅参りが盛んに行われ、伊勢神宮のお蔭参りに次ぐ人気がありました。参道の石段は奥社までの登ると1368段有りますが、本宮までであっても785段(以前は786段有ったようですが、この数が「なやむ」になるので、1段減らしたのだそうです。)有りました。本宮には神馬が飼われており、神事には真っ先に参加するそうです。海の守神なので、堀江健一さんが太平洋一人横断に使ったソーラーボートが奉納・展示されていました。歴代の奉納金も莫大らしく、大きな看板石に一本との表示と奉納者の名前が刻まれて、ずらと並んでいましたが、一本とは一千万の奉納の意味のようです。森の石松の金刀比羅参りは有名ですが、このとき奉納された刀は宝物殿に収納されているようでそいたが見物しませんでした。石松も785段の石段をのぼったかと思うと何か懐かしい気がしましたが、実は途中の重要文化財の旭社を本堂と誤り、ここへの参拝だけで帰ったと伝えられています。

